特集1 宇都宮の工業団地

工業都市・宇都宮を支える3つの工業団地

鉄道や高速道路、災害の少ない土地柄などの好条件に恵まれ、首都圏の北の拠点都市としての地位を築いた宇都宮市。その成長の大きな要素となったのが、市内の宇都宮（平出）、清原、瑞穂野の3つの工業団地です。当所はこれらの工業団地との日常的な意見交換などに取り組み、相互の協力による地域振興に努めています。

各団地ともに特色

宇都宮市は昭和59年に「テクノポリス」の地域指定を受けました。以来、産・学・住が有機的に結びついた高度技術集積都市として確かな歩みを続けています。市内の3つの工業団地は、その工業生産の中心的な存在となっています。県全体でみても、この3工業団地で本県製造品出荷額の約3割を占めています。

3工業団地それぞれに、大手企業が多い、地元企業が中心となっているなど、規模や成り立ちには特色があります。立地企業の性格もさまざまで、地元とのかかわり方にも当然違いが出ます。当所は各工業団地の事情に合わせながら、連携を図るための取り組みを積極的に進めてきました。

意見交換会を開催

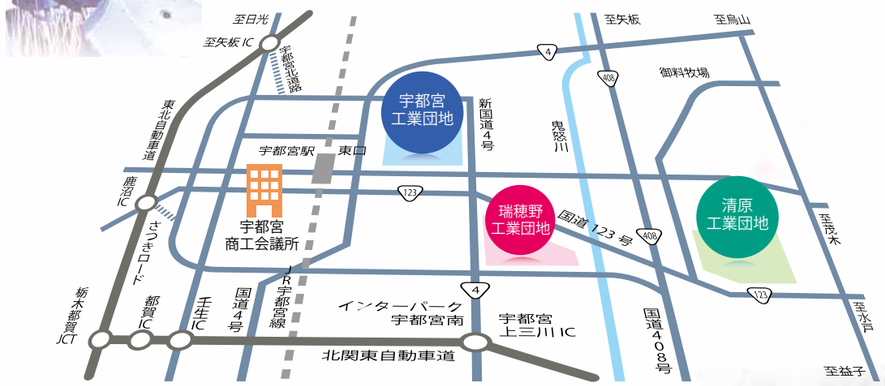
平成18年度から始まったのが、宇都宮、清原両工業団地役員と、当所関係者（会頭、副会頭、各部会長が出席）との意見交換会です。まずはどのような要望があるのかを把握することを目指しました。

この意見交換の中で企業側から宇都宮市内の宿泊施設を増やしてほしいとの要望が出され、当所として状況調査を行いました。また、大手企業から大震災後の修復資材の提供の相談を受け、会員企業を紹介したこともあります。

一方、当所からは、活動内容を理解してもらうために会報「天地人」を工業団地内企業に配布しました。さらに工場見学を設定してもらい、実際の企業活動を視察するなどして貴重な経験を得ました。

地元企業が大半を占める瑞穂野工業団地は、当所が「地元中小工場の工業団地造成について」を要望したという経緯もあり、立地企業には当所の会員も多くいます。これからもなお一層の緊密な連絡体制を確保していきます。

経済団体という性格上、各工業団地への補助金等の直接的な援助は難しいところですが、行政とは異なった視点から、地域との〝橋渡し役〟を務めることにしています。



空から見た宇都宮工業団地（平出工業団地）

市内で最も古い歴史

宇都宮工業団地は、宇都宮市の東部に位置し、市民には平出工業団地の名前で親しまれています。市内では最も古い工業団地です。新国道4号が間近にあり、北関東自動車道が開通したことによって、アクセスの良さは一段と高まりました。

立地企業が出そろった昭和45年当時は、工場用地が3万平方メートルを超える企業が64社中28社を占め、一部上場企業なども目立っていました。その後の経済状況の変化などによって、広い敷地を有していた大企業が撤退するなど整理統合が進み、その跡に中小企業が数多く立地するようになりました。

現在は中小企業をメインに、110社以上が操業しています。宇都宮市に本社機能を置く企業も数多くあります。従業員の数をみると、100人未満が91社と全体の約78％を占め、301人以上は5社にとどまっています。

節電に懸命の取り組み

業種別では当初は製造業が中心でした。現在は製造業は約44％と5割を切り、卸売業、倉庫業、設備建築業、産業廃棄物業、商品販売業など、多種多様な業態の企業が社屋を連ねています。平成21年の栃木県工業統計調査によると、出荷額は約3660億円となっています。

東日本大震災では地盤が強固だったせいか、幸いにも工場や社屋などには大きな被害は出ませんでした。しかし、食品関連企業などでは、その後の原発事故に伴う風評被害、計画停電による電子機器類への影響などが大きく、各企業とも対策に悩まされたといいます。節電には各社とも徹底的に取り組み、ラインが止められない分、シフトの変更や事務部門の空調の節減などによって目標を達成しました。

見学など積極的に対応

多様な企業が集まっていることや、地元に密着した企業が多いことから、管理組合である（一般社団）宇都宮工業団地総合管理協会が窓口になって、周辺の小中学校などを対象にしたCSR活動に力を入れています。現在、22事業所が協力の態勢を整えており、工場見学を積極的に受け入れるほか、講師の派遣、文化祭への参加なども行っています。少しでも子どもたちに関心を持ってもらうことで、将来の人材確保にもつなげたい考えです。

また、工業団地全体で取り組む「産業フェア」のような事業ができないかということも、今後の検討課題の一つにしているそうです。「一般の市民の方たちは、この工業団地の中にはどんな企業があるのか、また、どんな仕事をしているのか、よく分からないのが現実だと思います。工業団地内の各企業が出展するイベントを通して理解を深めてもらえれば。また立地企業が一堂に会することで、新たな取引が生まれる機会になるかもしれません」と同管理協会の富永利雄専務理事。

宇都宮工業団地の案内看板

宇都宮工業団地の概要（平出工業団地）

所在地	宇都宮市平出工業団地
事業主体	宇都宮市街地開発組合
団地管理組合	（一般社団）宇都宮工業団地総合管理協会
総面積	3,041,000㎡
出荷額	36,639,210万円
工場用地面積	2,431,000㎡
事業所数	116
従業員数	9,745人
分譲開始時期～完了時期	昭和37年9月～昭和50年10月

（出荷額は平成21年栃木県工業統計調査による）

Utsunomiya Industrial complex

01 Industrial complex

宇都宮工業団地（平出工業団地）

中小企業を中心に多様な企業が立地

清原工業団地

高度な技術を持つ大規模企業が集積

02 Industrial complex

Kiyohara Industrial complex

開発時は国内最大規模

清原工業団地は昭和46年から用地取得に入り、以後、順次、造成工事・分譲が行われてきました。開発当時は内陸型工業団地としては国内最大規模を誇りました。宇都宮市の東部地域、鬼怒川の東岸に広大な敷地面積を有しています。

東京に本社を置く大手企業が大半ですが、地元の大手企業も立地しています。1工場当たりの敷地区画が広いことがステータスの1つともなっています。宇都宮テクノポリスの中心的な役割を担い、栃木県内の工業団地のシンボルといえる存在でもあります。化学工業、電気機械器具製造、輸送用機械器具製造など、高度な最先端技術を持つ企業が進出しています。

平成21年の栃木県工業統計調査によると、出荷額は約8900億円となっています。宇都宮市全体の出荷額の約56%、栃木県全体でも約11%を占めています。大規模な企業が多いだけに企業の入れ替わりや分割分譲はほとんどありません。

環境保全に力を入れる

各企業が環境の保全に力を入れているのも大きな特徴です。栃木県の河川は首都圏の水源として重要な役割を果たしていることから、水質の保全には特に配慮しています。工場からの排水は、まず当該企業で県の排水基準以下に処理された後、工業団地内に設けられた市の排水処理施設で、さらに高度な処理を行って鬼怒川に放出されています。

広い主要道路には街路樹が植栽され、工業団地内には3カ所の公園緑地が設けられて、市民の憩いの場ともなっています。また、立地企業の総意に基づいた環境保全等にかかわる自主協定書を策定し、全企業を挙げて、日常的に良好な環境の保持に取り組んでいます。

しっかりした管理体制

管理に当たる（一般社団）清原工業団地総合管理協会が入居する管理センターには、診療所、郵便局、コンビニ、ATM、レストラン、体育館、会議室などが併設され、団地内で働く人はもちろん、地域の人たちにも広く利用されています。周辺にはスポーツ施設も充実しており、野球場、サッカー場、体育館、テニスコートなどが整備され、プロスポーツを含めて各種大会のメーン会場となっています。

東日本大震災では被害を受けた企業も少なくありませんでしたが、大手企業だけに立ち直りは早く、現在は支障なく操業しています。計画停電や節電にも各企業ともしっかりと取り組んできました。

管理協会は各企業から人材が出て、環境保全、安全衛生、交通対策、福利厚生、小集団活動の各委員会を構成。その活動の一環として、救命の研修会や団地内一斉清掃などに取り組んでいるほか、地域の中学校への交通安全用品の寄贈、地域自治会とのソフトボール大会など地域住民とのふれ合いも深めています。また、企業同士も各種スポーツ大会を通じた交流が図られています。

清原工業団地の概要

所在地	宇都宮市清原工業団地
事業主体	宇都宮市街地開発組合
団地管理組合	(一般社団)清原工業団地総合管理協会
総面積	3,876,292㎡
出荷額	89,033,665万円
工場用地面積	2,647,726㎡
事業所数	36
従業員数	11,924人
分譲開始時期～完了時期	昭和49年～昭和63年

(出荷額は平成21年栃木県工業統計調査による)

主要道路沿いにある清原工業団地の案内看板

空から見た清原工業団地

瑞穂野工業団地

地場の要請に応え製造業を軸に立地

03 Industrial complex

Mizuhono Industrial complex

空から見た瑞穂野工業団地

中小企業の移転用地

宇都宮市内の中小企業、中でも製造業の近代化、高度化を図るための移転用地として造成されたのが、瑞穂野工業団地です。宇都宮市の南東部、新国道4号に沿ってつくられており、北関東自動車道路との連結も容易で、交通の利便性は申し分ありません。

当時の宇都宮市内の中小企業は、敷地が狭くて増築ができず、さらに土地利用の用途規制もありました。また、公害問題への住民意識の高まりを受けて、騒音、振動、悪臭問題などへの対応も迫られていました。こうした課題に対応するため、宇都宮市土地開発公社が造成を手がけました。分譲に当たっては当所も宇都宮市と共同で、進出希望企業の経営診断に当たりました。

製造業以外の企業も増加

当初は製造業に限定した分譲でしたが、民法の買い戻し特約条項の10年が過ぎた時点で、他業種からの参入が可能になったため、現在は製造業は約72%となっています。その他の業種としては、サービス業、建設業、卸売・小売業、運輸業などです。立地企業のほとんどは宇都宮市内の中小企業です。課題となっているのは後継者不足で、少子化などのため事業を継ぐ人材が現れず、やむをえず廃業する事業所も見受けられるようになりました。

最近、円高が進み、また海外部品の調達率が高まってきたことを受け、自動車関連などの製造業の中には、工場を工業団地内に残しつつも、生き残りをかけて海外に進出する企業も増えてきました。平成21年の栃木県工業統計調査によると、出荷額は約181億円となっています。

今回の東日本大震災では、幸い建物などへの物理的な被害はほとんどありませんでした。しかし、計画停電の際には、ラインを止めることによって多大な影響を受けた企業も少なくなく、管理組合である瑞穂野工業団地(協)では、停電の情報を集めて組合員企業に提供するなどしました。

瑞穂野工業団地の案内看板

地域雇用に大きな貢献

同工業団地の造成に当たっては、併せて住宅団地がつくられました。この住宅団地に住んで、徒歩や自転車で事業所に通っている人が数多くおり、地域の雇用確保に大きく貢献しています。その意味でも地域密着型の工業団地といえます。

協同組合では地域貢献活動として、地元のお祭りに協賛したり、一部の企業では工場見学の受け入れなども実施しています。ほかにも使用済み切手やテレホンカードを収集し、宇都宮市社会福祉協議会に寄付するほか、地域の一斉清掃活動などに積極的に取り組んでいます。

また、協同組合が入居する宇都宮市瑞穂野勤労者会館は、工業団地会館として昔から周辺住民に親しまれてきた施設です。現在は同組合を指定管理者として運営され、地域住民に利用されています。

瑞穂野工業団地の概要

所在地	宇都宮市瑞穂
事業主体	宇都宮市土地開発公社
団地管理組合	瑞穂野工業団地(協)
総面積	301,920㎡
出荷額	1,809,950万円
工場用地面積	199,305㎡
事業所数	81
従業員数	1,240人
分譲開始時期～完了時期	昭和52年～昭和58年

(出荷額は平成21年栃木県工業統計調査による)